

子宮頸がんは
検診とワクチンで
予防できるがんです。

さあ、予防対策を始めましょう。

子宮頸がん予防のためには、「ワクチン接種」と「がん検診」がとても大切です。
あなたのからだ、あなたの大切な未来のためにも、ワクチンの接種で安心することなく、
「定期的ながん検診」を忘れずに実行してください。

一定年齢に対するHPVワクチン(子宮頸がん予防ワクチン)の接種には、公費助成も行われています。
子宮頸がん予防のご相談は、産婦人科医におまかせください。

公益社団法人日本産婦人科医会

当院のHPVワクチン接種
当院の子宮頸がん検診

静岡レディースクリニック

静岡レディースクリニック

公益社団法人日本産婦人科医会

子宮頸^{けい}がんは
検診とワクチンで
予防できるがんです。



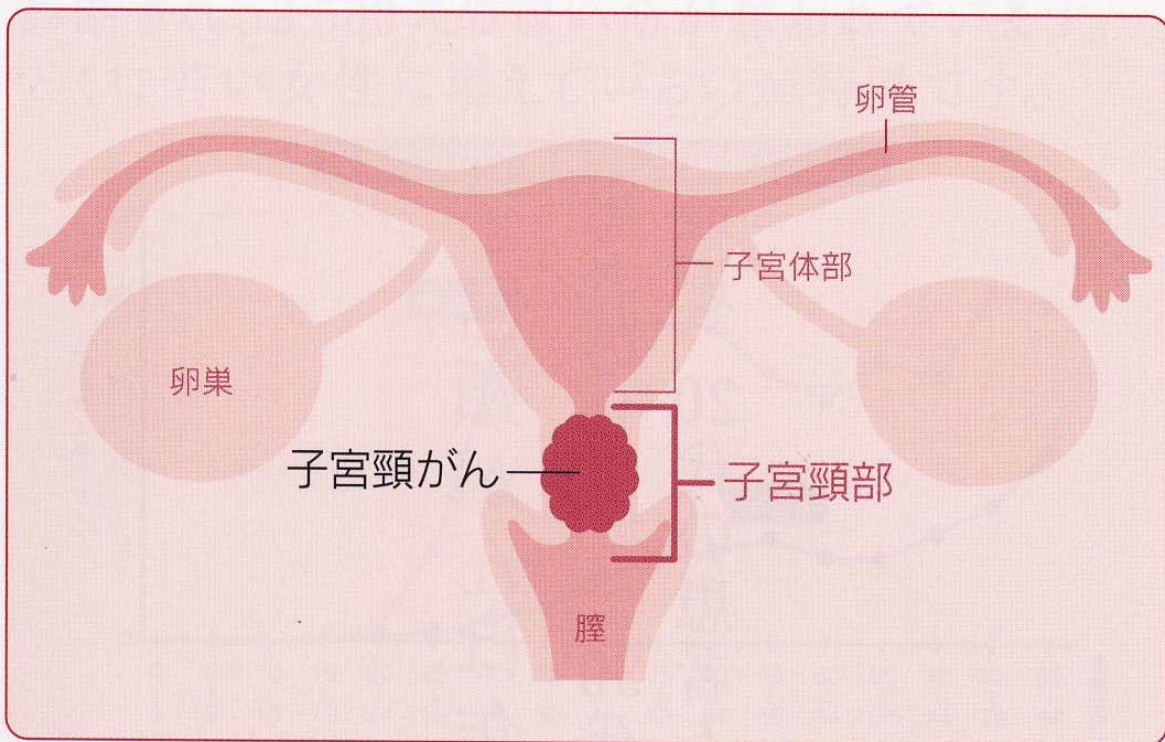
さあ、予防対策を始めましょう。

②

子宮頸がんってどんな病気？

公益社団法人 日本産婦人科医会
おとこまの健康を築くために

子宮頸がんは子宮頸部(子宮の入口)にできるがんです。



子宮頸がんは、性交渉によって侵入するHPV(ヒトパピローマウイルス)が深く関係するため、性交渉の経験がある女性は誰でもなる可能性があります。

HPVはどこにでもいるごくありふれたウイルスですが、子宮頸部に長期間とどまると、細胞が異形成というがんになる前の状態に変化することがあります。多くの場合は免疫力で正常な細胞に戻りますが、なかにはそのまま子宮頸がんに進捗してしまう場合もあります。

子宮頸がんの初期は自覚症状がないことが多く、気になる症状が出て検査を受けたときには、がんが周辺臓器にまで及んでいることも珍しくありません。そうなると、たとえ命が助かっても、子宮だけでなく卵巣や周辺臓器まで取るほどの手術になり、一生後遺症と付き合いがなくてはならなくなります。

HPV感染は決して特別視するようなことではなく、ほとんどの女性が経験するものです。

性交渉が自然な行為であるように、HPV感染もごく自然なことです。

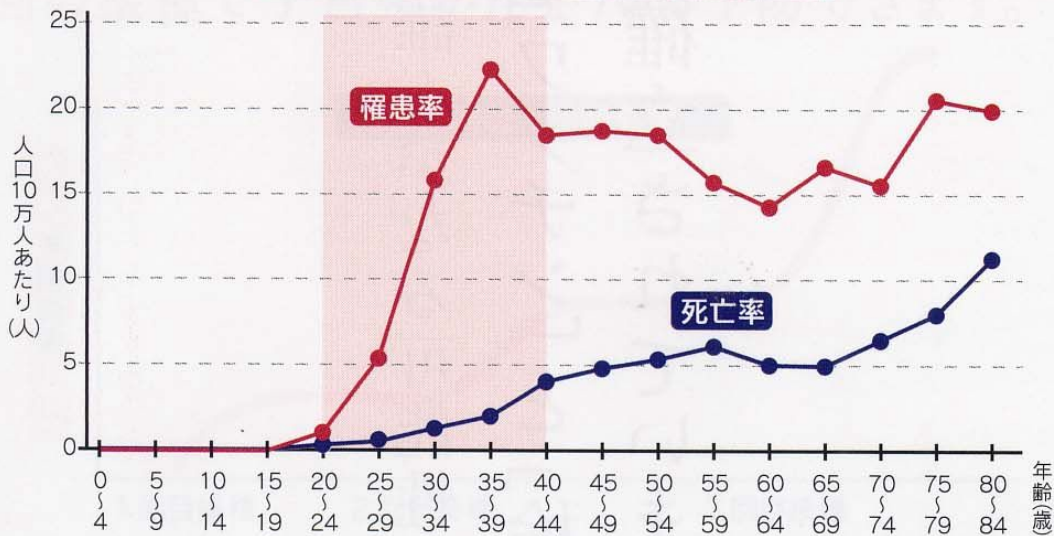
子宮頸がんは年齢を選びません。

患者のピークは30代です。

最近、20代の患者も急増しています。

日本では毎年新たに15,000人*が子宮頸がんと診断され、3,500人の尊い命が奪われています。とくに若い女性に増えているのが特徴です。

日本女性の子宮頸がん罹患率と死亡率



罹患率:2001年データ、死亡率:2005年データ 国立がんセンターがん対策情報センター
厚生労働科学研究費補助金 第3次対がん総合戦略研究事業 がん罹患・死亡動向の実態把握の研究
平成18年度 総括・分担研究報告書(主任研究者 祖父江友孝)、2007年4月公開 ※上皮内がんを含む



23歳で子宮頸がんの手術を受けた ^{あなみりえ} 阿南里恵さん (30歳)

私は23歳の誕生日を迎えた直後に子宮頸がんがわかり、抗がん剤治療後に子宮とリンパ節などを取りました。退院後は放射線治療を続けながら職場復帰をめざしましたが、思うように体力が回復せず、仕事を諦めて療養に専念しました。

23歳で子宮を取るという事実を受け入れるには、私だけでなく家族にも大きな覚悟が必要でした。そしてやっとの思いで社会復帰した後で、以前の生活に完全には戻れないことを知りました。現在のように前向きになれるまでに5年かかりましたが、今は多くの方に「子宮頸がんは予防できるがん」であることを知ってもらい、予防してほしいと心から願っています。

誰もがなる可能性をもつ子宮頸がん
「ワクチン」と「検診」による予防が
確立されています。

① 予防策① HPVワクチン

HPVワクチンは世界120カ国以上で接種されている21世紀のハイテクワクチンです。3回の接種で子宮頸がんを70%予防できます。



接種後数時間すると接種部位に強い痛みが生じたり赤く腫れたりすることがあります。でもそれは、あなたの身体の中でウイルスに対する抵抗力がつくられている立派な証拠です。3回の接種は必ず最後まで受けて、予防効果を高めましょう。

日本産婦人科医会では
11～14歳の女子への接種を強く推奨していますが、
15～45歳の女性への接種も奨めています。



私たちもワクチンを打ちました。

予防策② 子宮頸がん検診

がんになる前の状態を発見して子宮を守る

子宮頸がんに進む前には、頸部の細胞が変化した「異形成」というがんになる前の状態が続きます。いつ、どんな人が異形成やがんになるかわからないからこそ、頸部の変化をチェックする検診の習慣が必要です。最新の検診方法は、細胞の異常な変化を調べる「細胞診」とHPVの感染を調べる「HPV検査」を同時に受ける「併用検診」です。2つの検査を組み合わせることで、より正確な検査結果が得られます。また最近では「液状化細胞診」という方法も注目されています。

検診って何をやるの？

1. 問診



2. 内診 (視診・触診)



3. 細胞診、HPV検査

もし異形成だと言われても・・・

自然に細胞が修復されるのを待つ経過観察にする場合と、ちょっとした頸部の手術が必要な場合があります。異形成の段階での手術なら術後の妊娠・出産は可能です。



検診で異形成が見つかった おぎのれな 荻野玲奈さん (37歳)

毎年のことだからと何気なく受けていた検診で、高度異形成が見つかり、頸部の一部を切除する手術を受けました。子宮頸がんのことは知っていても、まさか自分が!と驚き、とても不安だったことを覚えています。

その2年後、二人目の子を出産。もし検診をおろそかにしてがんにまで進行していれば、この子には会えなかったと思うと、感謝の気持ちでいっぱいです。いつ異形成に変化するか、異形成からがんに進行するかは本人はもちろんお医者さまにもわかりません。だからこそ検診を習慣化させて“安心を得る”ことはとても重要だと思います。自分の体を守れるのは自分なのです。

子宮頸がんにになると
精神的、肉体的、経済的負担が生じます。

②

①①

経済的負担

高額な治療費
生活費の捻出
休職・失業

精神的負担

死への恐怖、治療への不安
子宮や卵巣を失う衝撃
家族の心配、経済的な心配
生活環境の急変
偏見との闘い
将来への不安

肉体的負担

手術・治療の後遺症との闘い
リンパ浮腫*
排尿障害
性交渉での障害など
体力・回復力の低下

*病的な足のむくみ

こんな思いをしないですむように
ワクチンと検診があなたを守ります。

- ワクチンは成人女性でも効果があります。
- 検診には異常を探す細胞診と、
がんになるリスクがわかるHPV検査があります。
両方の検査を同時に行うことで、
前がん状態も確実に発見できます。

ワクチン接種への迷い、検診へのためらいが
あなたの生活を一変させてしまうかもしれません。

さあ、予防対策を始めましょう。

子宮頸がん予防のために
「ワクチン接種」と「がん検診」は
とても大切なことです。

あなたのからだ、あなたの大切な未来のためにも、
ワクチンの接種で安心することなく
「定期的ながん検診」を忘れずに実行してください。

産婦人科は妊娠・出産だけでなく
女性を生涯にわたり総合的にサポートする診療科です。

子宮頸がん予防、「ワクチン接種」、「がん検診」のご相談は
産婦人科医におまかせください。

私たち産婦人科医は、あなたの健康をお守りします。

公益社団法人 日本産婦人科医会
会長 寺尾 俊彦

公益社団法人 日本産婦人科医会